

なから還りきたりてエホバの前に哭きたりしエホバがみこころの聲を聴たまはせ汝らに耳を傾けけたま
 とざりき 是をもてなんから日久しくカテラに居りながら其處に居たる日數のごとし
 一 斯て我らの身を轉らしエホバの我を命じたまへる如く紅海の途より曠野に進みいでりて日久し
 くセイル山を行ゆべし たりしが エホバの我を命じたまへりて 汝等ハこの山を行ゆべし 既に
 久し今より北に轉りて進め 汝また民に命じて言へ 汝らハセイル山に住るエサウの子孫なる汝らの兄弟
 の境界を通らんとす 汝らハこれを懼れ 汝ら深く自ら謹み 彼らを攻め 勿れ 汝らの地ハ足跡の跡
 に隠はざるも 汝らに與へ 其ハ我ハセイル山をエサウにわたへて 産業となさ 汝らハあり 汝ら金をも
 て 彼らより食物を買ひ 食ひ 汝ら金をもて 彼らより水をもて 飲め 汝の神エホバが手に作せしもの
 諸の事において 汝をめぐみ 汝がこの大なる曠野を通るを看せ 汝は 汝の神エホバの四十一年の
 わひだ 汝とも 汝に在り 汝に在り 汝に在り 汝に在り 汝に在り 汝に在り 汝に在り 汝に在り 汝に在り
 る 我らの兄弟を離れて トラバの路を通り トラバとニシオンゲルを経て 轉りて エホバの曠野の路に進み
 いれり 時に エホバが 汝らに告げたまひける 我らエホバの我を命じたまへて 産業となさ 汝らハあり
 地をバ我ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら
 エミ人ごに 住り 是民ハ大にして 數多く アナク人のごとく 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら
 と呼ばざれたる 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら
 孫を 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら
 按に 汝等今 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら

一 申三三章五十一節
 二 申三三章五十二節
 三 申三三章五十三節
 四 申三三章五十四節
 五 申三三章五十五節
 六 申三三章五十六節
 七 申三三章五十七節
 八 申三三章五十八節
 九 申三三章五十九節
 十 申三三章六十節
 十一 申三三章六十一節
 十二 申三三章六十二節
 十三 申三三章六十三節
 十四 申三三章六十四節
 十五 申三三章六十五節
 十六 申三三章六十六節
 十七 申三三章六十七節
 十八 申三三章六十八節
 十九 申三三章六十九節
 二十 申三三章七十節

一 申三三章七十一節
 二 申三三章七十二節
 三 申三三章七十三節
 四 申三三章七十四節
 五 申三三章七十五節
 六 申三三章七十六節
 七 申三三章七十七節
 八 申三三章七十八節
 九 申三三章七十九節
 十 申三三章八十節
 十一 申三三章八十一節
 十二 申三三章八十二節
 十三 申三三章八十三節
 十四 申三三章八十四節
 十五 申三三章八十五節
 十六 申三三章八十六節
 十七 申三三章八十七節
 十八 申三三章八十八節
 十九 申三三章八十九節
 二十 申三三章九十節

一 申三三章九十一節
 二 申三三章九十二節
 三 申三三章九十三節
 四 申三三章九十四節
 五 申三三章九十五節
 六 申三三章九十六節
 七 申三三章九十七節
 八 申三三章九十八節
 九 申三三章九十九節
 十 申三三章百節
 十一 申三三章百零一節
 十二 申三三章百零二節
 十三 申三三章百零三節
 十四 申三三章百零四節
 十五 申三三章百零五節
 十六 申三三章百零六節
 十七 申三三章百零七節
 十八 申三三章百零八節
 十九 申三三章百零九節
 二十 申三三章百一十節

一 申三三章百一十一節
 二 申三三章百一十二節
 三 申三三章百一十三節
 四 申三三章百一十四節
 五 申三三章百一十五節
 六 申三三章百一十六節
 七 申三三章百一十七節
 八 申三三章百一十八節
 九 申三三章百一十九節
 十 申三三章百二十節
 十一 申三三章百二十一節
 十二 申三三章百二十二節
 十三 申三三章百二十三節
 十四 申三三章百二十四節
 十五 申三三章百二十五節
 十六 申三三章百二十六節
 十七 申三三章百二十七節
 十八 申三三章百二十八節
 十九 申三三章百二十九節
 二十 申三三章百三十節

一 申三三章百三十一節
 二 申三三章百三十二節
 三 申三三章百三十三節
 四 申三三章百三十四節
 五 申三三章百三十五節
 六 申三三章百三十六節
 七 申三三章百三十七節
 八 申三三章百三十八節
 九 申三三章百三十九節
 十 申三三章百四十節
 十一 申三三章百四十一節
 十二 申三三章百四十二節
 十三 申三三章百四十三節
 十四 申三三章百四十四節
 十五 申三三章百四十五節
 十六 申三三章百四十六節
 十七 申三三章百四十七節
 十八 申三三章百四十八節
 十九 申三三章百四十九節
 二十 申三三章百五十節

一 申三三章百五十一節
 二 申三三章百五十二節
 三 申三三章百五十三節
 四 申三三章百五十四節
 五 申三三章百五十五節
 六 申三三章百五十六節
 七 申三三章百五十七節
 八 申三三章百五十八節
 九 申三三章百五十九節
 十 申三三章百六十節
 十一 申三三章百六十一節
 十二 申三三章百六十二節
 十三 申三三章百六十三節
 十四 申三三章百六十四節
 十五 申三三章百六十五節
 十六 申三三章百六十六節
 十七 申三三章百六十七節
 十八 申三三章百六十八節
 十九 申三三章百六十九節
 二十 申三三章百七十節

一 申三三章百七十一節
 二 申三三章百七十二節
 三 申三三章百七十三節
 四 申三三章百七十四節
 五 申三三章百七十五節
 六 申三三章百七十六節
 七 申三三章百七十七節
 八 申三三章百七十八節
 九 申三三章百七十九節
 十 申三三章百八十節
 十一 申三三章百八十一節
 十二 申三三章百八十二節
 十三 申三三章百八十三節
 十四 申三三章百八十四節
 十五 申三三章百八十五節
 十六 申三三章百八十六節
 十七 申三三章百八十七節
 十八 申三三章百八十八節
 十九 申三三章百八十九節
 二十 申三三章百九十節

なから還りきたりてエホバの前に哭きたりしエホバがみこころの聲を聴たまはせ汝らに耳を傾けけたま
 とざりき 是をもてなんから日久しくカテラに居りながら其處に居たる日數のごとし
 一 斯て我らの身を轉らしエホバの我を命じたまへる如く紅海の途より曠野に進みいでりて日久し
 くセイル山を行ゆべし たりしが エホバの我を命じたまへりて 汝等ハこの山を行ゆべし 既に
 久し今より北に轉りて進め 汝また民に命じて言へ 汝らハセイル山に住るエサウの子孫なる汝らの兄弟
 の境界を通らんとす 汝らハこれを懼れ 汝ら深く自ら謹み 彼らを攻め 勿れ 汝らの地ハ足跡の跡
 に隠はざるも 汝らに與へ 其ハ我ハセイル山をエサウにわたへて 産業となさ 汝らハあり 汝ら金をも
 て 彼らより食物を買ひ 食ひ 汝ら金をもて 彼らより水をもて 飲め 汝の神エホバが手に作せしもの
 諸の事において 汝をめぐみ 汝がこの大なる曠野を通るを看せ 汝は 汝の神エホバの四十一年の
 わひだ 汝とも 汝に在り 汝に在り 汝に在り 汝に在り 汝に在り 汝に在り 汝に在り 汝に在り 汝に在り
 る 我らの兄弟を離れて トラバの路を通り トラバとニシオンゲルを経て 轉りて エホバの曠野の路に進み
 いれり 時に エホバが 汝らに告げたまひける 我らエホバの我を命じたまへて 産業となさ 汝らハあり
 地をバ我ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら
 エミ人ごに 住り 是民ハ大にして 數多く アナク人のごとく 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら
 と呼ばざれたる 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら
 孫を 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら
 按に 汝等今 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら 汝ら

一 申三三章七十一節
 二 申三三章七十二節
 三 申三三章七十三節
 四 申三三章七十四節
 五 申三三章七十五節
 六 申三三章七十六節
 七 申三三章七十七節
 八 申三三章七十八節
 九 申三三章七十九節
 十 申三三章八十節
 十一 申三三章八十一節
 十二 申三三章八十二節
 十三 申三三章八十三節
 十四 申三三章八十四節
 十五 申三三章八十五節
 十六 申三三章八十六節
 十七 申三三章八十七節
 十八 申三三章八十八節
 十九 申三三章八十九節
 二十 申三三章九十節

一 申三三章九十一節
 二 申三三章九十二節
 三 申三三章九十三節
 四 申三三章九十四節
 五 申三三章九十五節
 六 申三三章九十六節
 七 申三三章九十七節
 八 申三三章九十八節
 九 申三三章九十九節
 十 申三三章百節
 十一 申三三章百零一節
 十二 申三三章百零二節
 十三 申三三章百零三節
 十四 申三三章百零四節
 十五 申三三章百零五節
 十六 申三三章百零六節
 十七 申三三章百零七節
 十八 申三三章百零八節
 十九 申三三章百零九節
 二十 申三三章百一十節

一 申三三章百一十一節
 二 申三三章百一十二節
 三 申三三章百一十三節
 四 申三三章百一十四節
 五 申三三章百一十五節
 六 申三三章百一十六節
 七 申三三章百一十七節
 八 申三三章百一十八節
 九 申三三章百一十九節
 十 申三三章百二十節
 十一 申三三章百二十一節
 十二 申三三章百二十二節
 十三 申三三章百二十三節
 十四 申三三章百二十四節
 十五 申三三章百二十五節
 十六 申三三章百二十六節
 十七 申三三章百二十七節
 十八 申三三章百二十八節
 十九 申三三章百二十九節
 二十 申三三章百三十節

一 申三三章百三十一節
 二 申三三章百三十二節
 三 申三三章百三十三節
 四 申三三章百三十四節
 五 申三三章百三十五節
 六 申三三章百三十六節
 七 申三三章百三十七節
 八 申三三章百三十八節
 九 申三三章百三十九節
 十 申三三章百四十節
 十一 申三三章百四十一節
 十二 申三三章百四十二節
 十三 申三三章百四十三節
 十四 申三三章百四十四節
 十五 申三三章百四十五節
 十六 申三三章百四十六節
 十七 申三三章百四十七節
 十八 申三三章百四十八節
 十九 申三三章百四十九節
 二十 申三三章百五十節

一 申三三章百五十一節
 二 申三三章百五十二節
 三 申三三章百五十三節
 四 申三三章百五十四節
 五 申三三章百五十五節
 六 申三三章百五十六節
 七 申三三章百五十七節
 八 申三三章百五十八節
 九 申三三章百五十九節
 十 申三三章百六十節
 十一 申三三章百六十一節
 十二 申三三章百六十二節
 十三 申三三章百六十三節
 十四 申三三章百六十四節
 十五 申三三章百六十五節
 十六 申三三章百六十六節
 十七 申三三章百六十七節
 十八 申三三章百六十八節
 十九 申三三章百六十九節
 二十 申三三章百七十節

一 申三三章百七十一節
 二 申三三章百七十二節
 三 申三三章百七十三節
 四 申三三章百七十四節
 五 申三三章百七十五節
 六 申三三章百七十六節
 七 申三三章百七十七節
 八 申三三章百七十八節
 九 申三三章百七十九節
 十 申三三章百八十節
 十一 申三三章百八十一節
 十二 申三三章百八十二節
 十三 申三三章百八十三節
 十四 申三三章百八十四節
 十五 申三三章百八十五節
 十六 申三三章百八十六節
 十七 申三三章百八十七節
 十八 申三三章百八十八節
 十九 申三三章百八十九節
 二十 申三三章百九十節

はるどこの地を獲て産業となすに至らば汝らの我がなんぢらに與へし産業に歸るべし
 三 かの時
 に我ヨシエアに命じて言ひ汝の二人の王に汝らの神エホバのおておひたさる所の事を目に滅たり
 ホバまた汝が往てこの諸の國にも斯のごとく行ひたまはらん 三 汝これを知るゝ勿れ汝らの神エホバが汝
 のために戰ひたまはんと ○ 當用われエホバに求めて言ひ 主エホバよ汝の力なる事と汝の強き手
 を僕も見すことを始めたまへり天にても地にても何の神か能はんぢの如き事業を爲し汝のごとき能力を
 有んや 願ひ我をして洩りゆかまめヨルダンの彼旁なる善地美山およびレバノンを見てとを得ざせ
 せんと 然るにエホバがなんぢらの故をもて我を怒り我に聽てとを爲たまはらずエホバすおはち我に言たま
 ひけるに既に足りこの事を重て我も言なかれ 汝エスカの嶺にのぼり目を擧て西北南東を望み汝の目
 をもて其地を觀よ汝りヨルダンを濟ることを得ざるべけれなり 汝ヨシエアに命じて之に力をつけ之を
 堅らせよ其の民を率ゐて洩りゆき之に汝が見るとその地を獲ざる者ん彼亦あればありと かくて
 我らハベラエアルに對する谷に居る
 今イスラエルと我が汝らに教ふる法度と律法を聽てこれを行へ然せば汝らに生ることを得汝
 らの先祖の神エホバの汝らに賜ふ地に在りて之を産業とあすを得べし 二 我が汝らに命ずる言ひ汝らこれ
 を増しまたり減すべからず我が汝らに命ずる汝らの神エホバの命令を守るべし 三 汝らハエホバがバアル
 エアルの事によりて行ひたまはしし所を目に觀たり即ちバアルに從かひたる人々ハ汝の神エホバに
 とごどく之を汝らの中間より滅し去たまひしが 汝らの神エホバに附て離れざりし汝等ハみな今日まで
 も生ながら居るあり 我らハエホバの我に命じたまひし如くに法度と律法を汝らに教へ汝らをして

イ 申二二章 八節
 ケ 申二二章 九節
 ア 申二二章 十節
 カ 申二二章 十一節
 コ 申二二章 十二節
 ク 申二二章 十三節
 ケ 申二二章 十四節
 コ 申二二章 十五節
 ク 申二二章 十六節
 ケ 申二二章 十七節
 コ 申二二章 十八節
 ク 申二二章 十九節
 ケ 申二二章 二十節
 コ 申二二章 二十一節
 ク 申二二章 二十二節
 ケ 申二二章 二十三節
 コ 申二二章 二十四節
 ク 申二二章 二十五節
 ケ 申二二章 二十六節
 コ 申二二章 二十七節
 ク 申二二章 二十八節
 ケ 申二二章 二十九節
 コ 申二二章 三十節
 ク 申二二章 三十一節
 ケ 申二二章 三十二節
 コ 申二二章 三十三節
 ク 申二二章 三十四節
 ケ 申二二章 三十五節
 コ 申二二章 三十六節
 ク 申二二章 三十七節
 ケ 申二二章 三十八節
 コ 申二二章 三十九節
 ク 申二二章 四十節
 ケ 申二二章 四十一節
 コ 申二二章 四十二節
 ク 申二二章 四十三節
 ケ 申二二章 四十四節
 コ 申二二章 四十五節
 ク 申二二章 四十六節
 ケ 申二二章 四十七節
 コ 申二二章 四十八節
 ク 申二二章 四十九節
 ケ 申二二章 五十節

ての往て獲てこの地において之を行たまはんとせり 然バ汝ら之を守り行ふべし然する事ハ國々の
 民の目の前において汝らの智慧たり汝らの知識たるなり彼らこの諸の法度を聞て言えこの大なる國ハ
 必ず智慧あり知識ある民ありと われらの神エホバハ我らがこれお願もどむるに常に我らに近く在り
 り何の國人か斯のごとく大にして 神これに近く在り 又何の國人か斯のごとく大にして 今日我が汝
 らの前に立るよの一切の律法の如き正しき法度と律法とを有るや 汝深く自ら慎み汝の心を盡く守れ恐
 くり汝の目に觀たる事を忘れん 汝らの生存らふる日の中に其等の事故の心を離れん 汝これらの
 事を汝の子の孫に教へよ 汝がホレバにおいて汝の神エホバの前に立る日にエホバわれお言たまひけ
 らく我ためお民を集めよ我れお吾言を聽えめ之をまてりの世お存らふる日の間我を畏ることを學ん
 せまたりの子女を教ふることを爲えめん 是をおいて汝らハ前よりて山の麓に立ちけるが山ハ
 火にて燦てるの像ハ中天に沖り暗くして雲あり黒雲かりき 時にエホバ火の中より汝らお言たまひ
 しが汝らハ言詞の聲を聞る而巴わて聲け外ハ何れ像をも見ざりし 二 三 エホバすなごち其契約を汝らお述て
 汝らに之を守れと命じたまへり是すなごち十誡として 二 三 汝これをして二枚の石の板に書したまふ 十 かの時
 にエホバ我に命じて汝らに法度と律法を教へたまへり是汝らハ今の往て獲てこの地わて之を爲法
 めんとてありき 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九
 形にもお見えて遣るなかれ 即ち地の上をる諸の獸の像空を飛ぶ諸の鳥の像 地を歩くもの物
 の像地の下の水の中お居る諸れ魚の像など凡て造る勿れ 汝目をあげて天を望み日月星辰など凡て天の
 六二七 六二八 六二九 六三〇 六三一 六三二 六三三 六三四 六三五 六三六 六三七 六三八 六三九 六四〇

イ 申二二章 四十一節
 ケ 申二二章 四十二節
 コ 申二二章 四十三節
 ク 申二二章 四十四節
 ケ 申二二章 四十五節
 コ 申二二章 四十六節
 ク 申二二章 四十七節
 ケ 申二二章 四十八節
 コ 申二二章 四十九節
 ク 申二二章 五十節
 ケ 申二二章 五十一節
 コ 申二二章 五十二節
 ク 申二二章 五十三節
 ケ 申二二章 五十四節
 コ 申二二章 五十五節
 ク 申二二章 五十六節
 ケ 申二二章 五十七節
 コ 申二二章 五十八節
 ク 申二二章 五十九節
 ケ 申二二章 六十節
 コ 申二二章 六十一節
 ク 申二二章 六十二節
 ケ 申二二章 六十三節
 コ 申二二章 六十四節
 ク 申二二章 六十五節
 ケ 申二二章 六十六節
 コ 申二二章 六十七節
 ク 申二二章 六十八節
 ケ 申二二章 六十九節
 コ 申二二章 七十節
 ク 申二二章 七十一節
 ケ 申二二章 七十二節
 コ 申二二章 七十三節
 ク 申二二章 七十四節
 ケ 申二二章 七十五節
 コ 申二二章 七十六節
 ク 申二二章 七十七節
 ケ 申二二章 七十八節
 コ 申二二章 七十九節
 ク 申二二章 八十節
 ケ 申二二章 八十一節
 コ 申二二章 八十二節
 ク 申二二章 八十三節
 ケ 申二二章 八十四節
 コ 申二二章 八十五節
 ク 申二二章 八十六節
 ケ 申二二章 八十七節
 コ 申二二章 八十八節
 ク 申二二章 八十九節
 ケ 申二二章 九十節

衆人を觀誘はれてこれを拜み之を事ふる勿れ是は汝の刑エホバが天下の萬國の人々を分ちたまひし者
 ありエホバ汝らを取らば汝らの爐の中すなばちエホバより導きいだして自己の產業の民とあはし
 せらるること今日の猶とし然るにエホバなんぢらの故より我を怒り我ハヨルダンを濟りゆりてを
 得たまは汝の神エホバが汝の產業に賜ひしを汝を得ずと誓ひたまへり我ハこの地も死
 ざるを得ず我ハヨルダンを濟りゆりてとあははすかんなら濟りゆきて之を獲て產業とあすことを得ん
 汝ら自ら憤み汝らの神エホバが汝らに立たまひし契約を忘れて汝の神エホバの禁じたまふ偶像など凡て
 物の像を刻むべきことを爲なかれ汝の神エホバハ燐燐す火煉婦神なり○汝ら手を擧げ孫を得ての地に
 長く居におよびて若し道をわやまりて偶像など凡て物の像を刻み汝の神エホバの惡を觀たふ事をなし
 てその震怒を惹おすことあらば我今日天と地を呼て證となす汝らハヨルダンを濟りゆ
 けて獲たる地より速に滅亡せしめん汝らハその上に汝らの日を承する能はず必ず滅びらせんエホバ
 なんぢら各國々に散らしたまふべしエホバの汝らを逐やりたまふ國々の中に汝らの還る者ハその數算な
 らん其處にて汝らハ人の手の作なる見ても食ふことも唄くこともなき木や石の神々に事へん
 但しまた其處にて汝らの神エホバを求むるわらん若し心をつくり精神を盡してこれを求めなば之に
 遇ん後の日にいたりて汝ら難にわひて此もろくの事の汝に臨まぬ時に汝もろくの神エホバにたぢ歸
 りての言を忘れたまはせよ汝の神エホバハ慈悲ある神なれば汝を棄らず汝を滅びたまはた汝の先祖に誓ひた
 りし契約を忘れたまはざるべし試に問へ汝の前に過さざりし日神が地の上に人を造りたまひし日より
 巴來天の此極より從極まで會て地のごとく汝大なる事ありしや是のほどき事の聞えたる事ありしや曾

申命記一五十七節
 一五八節
 一五九節
 一六〇節
 一六一節
 一六二節
 一六三節
 一六四節
 一六五節
 一六六節
 一六七節
 一六八節
 一六九節
 一七〇節
 一七一節
 一七二節
 一七三節
 一七四節
 一七五節
 一七六節
 一七七節
 一七八節
 一七九節
 一八〇節
 一八一節
 一八二節
 一八三節
 一八四節
 一八五節
 一八六節
 一八七節
 一八八節
 一八九節
 一九〇節
 一九一節
 一九二節
 一九三節
 一九四節
 一九五節
 一九六節
 一九七節
 一九八節
 一九九節
 二〇〇節
 二〇一節
 二〇二節
 二〇三節
 二〇四節
 二〇五節
 二〇六節
 二〇七節
 二〇八節
 二〇九節
 二一〇節
 二一一節
 二一二節
 二一三節
 二一四節
 二一五節
 二一六節
 二一七節
 二一八節
 二一九節
 二二〇節
 二二一節
 二二二節
 二二三節
 二二四節
 二二五節
 二二六節
 二二七節
 二二八節
 二二九節
 二三〇節

て人神が火の中より言ふ聲を汝らが聞るごとくに聞て荷生る者あざしや汝らの神エホバがエホバトに
 いて汝らの目の前にて汝らの爲に諸の事を爲たまひし如く曾て試探と鐵誡と戰爭と強き手と伸
 たる脚と大なる熱曠をもて來りし民をわかの民の中より領いださんとせし神ありしや汝にての事を取
 ちしエホバハすあち神にしてその外に有るとなし汝に知たまはた汝に敬へん汝を敬へんため
 にエホバ天より汝に聲を聞しめ地に於ていまたうの大なる火を汝に示したまへり即ち汝ハその言の火の
 中より出るを聞きエホバ汝の先祖等を變じたまひしが故にうの後の子孫を選び大なる能力をもて觀ら
 ぬ汝をエホバトより導き出したまひ汝よりも大にして強き國々の民を汝に前より導きえらひ汝をその地に
 導きいりて之を汝の產業に與へんとたまはせよ今日汝に思ふこと今日汝に心に思念べし上ハ
 天下の地に於いてエホバハ神をいさしうの外に神有とぞ無し今日わが汝に命ずるエホバの法度と命
 命を守るべし然せむ汝と汝の後の子孫神を得汝の神エホバの故なすまふ地において汝の日を承す
 ることを得て疆なからん○斯てモルセヨルダンの此旁日の出る方にかいて邑を別てり是素より怨
 なきに誤りて人を殺せる者を去て其處に逃れ免むる爲なり其邑の一に逃るる諸人の人生を全うする
 を得べし即ち一ハ曠野の内平野に於てセルモルセは人々のためあり一ハギレアのラモラは人々
 へのためなり一ハバシヤンのエラツは人々のためなり○モルセがイナラエルの子孫の前に示
 せし律法は是よりイナラエルの子孫のエホバトより出たる後モルセの誠命と法度と律法を之に述べ
 り即ちヨルダンの此旁なるアモリ人の王シホンの地にありてアモルを對する谷を於て之を述べたり
 本ハシホンに往をりしがモルセとイナラエルの子孫エホバトより出きたりし後これを書はる不して

申命記二四節
 二五節
 二六節
 二七節
 二八節
 二九節
 三〇節
 三一節
 三二節
 三三節
 三四節
 三五節
 三六節
 三七節
 三八節
 三九節
 四〇節
 四一节
 四二節
 四三節
 四四節
 四五節
 四六節
 四七節
 四八節
 四九節
 五〇節
 五一節
 五二節
 五三節
 五四節
 五五節
 五六節
 五七節
 五八節
 五九節
 六〇節
 六一節
 六二節
 六三節
 六四節
 六五節
 六六節
 六七節
 六八節
 六九節
 七〇節
 七一節
 七二節
 七三節
 七四節
 七五節
 七六節
 七七節
 七八節
 七九節
 八〇節
 八一節
 八二節
 八三節
 八四節
 八五節
 八六節
 八七節
 八八節
 八九節
 九〇節
 九一节
 九二節
 九三節
 九四節
 九五節
 九六節
 九七節
 九八節
 九九節
 一〇〇節

四七 地の地を獲たりバシヤの地を獲たり彼ら二ハアモリ人の王にしてヨルダンの此岸日の出
 四八 なる方に居りたる獲たる地ハアモリ人の王にしてヨルダンの此岸日の出
 四九 此の此岸すあちその東の方なるアラバの全部を担てアラバの鹽海を達しヒエガの麓に於より
 五〇 一 彼ハモ一セイスラエルをこそとて召て之に言ふイスラエルよ今日我がなちちの耳に語る
 五一 此の法の度と律法とを聞きてこれを學びてこれを守りて行へよ我らの神エホバハソレに於て我らと契約
 五二 結びたまへりこの契約ハエホバわれらの先祖等と結ばしめて我ら今日此に生存する者ども結びた
 五三 へりエホバ山において火の中より我らと面をわけて言ひたまひしがその時我ハエホバと我らの
 五四 間にたちてエホバの言を我らに傳へたり我ら火に懼れて山にのぼり得ざりければなりエホバすなはち
 五五 言たまひけり我ハ汝の神エホバ汝をエホバの地の奴隸たる家より導き出せし者なり汝の面の
 五六 前に我の外何物をも神とすべからず汝自己のために何の偶像をも彫むべからず又上ハ天にある者下ハ
 五七 地にある者すら次に地の下の水のの中にある者の何の形状をも作るべからず之を拜むべからず之ハ事
 五八 べからず我ハ汝の神ハ汝の神ハ汝の神ハ汝の神ハ汝の神ハ汝の神ハ汝の神ハ汝の神ハ汝の神ハ汝の神
 五九 我を愛しわが誠命を守る者ハ我の恩恵を加して千代にいたるなり汝の神エホバの名を妄に口をあへ
 六〇 からずエホバハ己の名を妄に口をあへる者を罰せりおかざるべし安息日を守りて之を聖潔すること
 六一 汝の神エホバの汝を命せしむとくすべし六日のおひだ働きて汝の一切の業を爲べし七日ハ汝の神エ
 六二 ホバの安息なれば何の業務をも爲べからず汝も汝の男子女子も汝の僕婢も汝の牛驢馬も汝の家畜も
 六三 汝の門の中に在る他國の人も然り斯ならん僕婢を去て汝とあかしく息を吐ひべし汝議ゆべし汝かつて

エホバの地ハ奴隸たりし汝の神エホバ強き手と伸べたる腕とをもて其處より汝を導き出したまへり
 是をもて汝の神エホバなちちお安息日を守れと命じたそふかり汝の神エホバの汝を命じたまふとどく
 汝の父母を敬へ是汝の神エホバの汝を賜ふ地において汝の日の長からんため汝に祈のあらんためなり
 汝を盗む勿し汝を盗む勿し汝を盗む勿し汝の親を愛して虚妄の証據をたづぬ勿れ汝の隣人
 の妻を食ふなかれまた隣人ハ家田野僕婢牛驢馬ならびに凡て汝の隣人の所有を食ふなかれ是等の
 言をエホバ山において火の中雲の中黒雲の中より大なる聲をもて汝らの全會衆に告たまひしが此外に
 言てを爲す之を二枚の石の板に書して我に授けたまはり時にこの山に火にて燒をりし汝ら黑暗の
 中よりその聲の出るを聞におよびて汝らの支派の長および長老等我に進みよきて言るなり我らの
 神エホバの榮光と大なる事を我らに示したまひて我らの聲の火の中より出るを聞き我ら今日エ
 ホバと言ひたまふてこの人の尚生るを見る我らかんと死むべけんや此大なる火われらを燒ゆ
 るばさんとするなり我らも此上になは我らの神エホバの聲を聞き我ら死べし凡し肉身の者の中誰か能く
 活神の火の中より言ひたまふ聲を我らのでとくに聞てなほ生る者あらんや請ふ汝進みゆきて我らの神
 エホバの言たまふてを都て聞き我らの神エホバの汝に告給ふところを都て我らに告ぐ我ら聽て行は
 んとエホバなちちらに我に語れる言の聲を聞てエホバ我に言たまひたるハ我らの民の汝も語れる言の
 聲を聞き我らの言てこの言皆善し只願しきハ彼等が期のおどき心を懼いて恒に我を畏れ吾の誠命を守
 りてこの身もろの子孫も永く福を得にいたらん事なり汝ゆきて彼らも言へ汝らおのろの天幕をか
 へるべしと然て汝と此わて我傍も喜て我なちち諸の誠命と法度と律法とを告しめさん汝これ我を

らお教へ我が彼らに與へて産業とあきあきする地において彼らにこれを行はせむべしと、然るに汝らの神エホバの汝等に命じたまふごとくに汝ら讀みて行ふべし右も曲るべからず、汝らの神エホバの汝らに命じたまふごとくに汝ら讀みて行ふべし、然るに汝らの神エホバの汝らに命じたまふごとくに汝ら讀みて行ふべし、然るに汝らの神エホバの汝らに命じたまふごとくに汝ら讀みて行ふべし、

汝らがその濟りゆきて獲てその地に於て行ふべき者あり、是に汝の子および汝の孫をしてその生命を長らふる日の間、汝の神エホバを畏れ去めて我が汝らに命ずるの諸の法度と誠命を守らせむべし、

汝らめ又汝らちの目を承からしめん、汝らめ又汝らちの目を承からしめん、汝らめ又汝らちの目を承からしめん、汝らめ又汝らちの目を承からしめん、

福を獲汝の先祖の神エホバの汝に言たまひしごとく乳と蜜の流るる國を汝の業を以て汝らに命ずるべし、

ラエルよ聽け我が神エホバは唯一の神エホバなり、汝心を盡し精神を盡し力を盡して汝の神エホバを愛すべし、今日我が汝に命ずる是の言に汝これをして心わらしめ、

も路を歩む時、も寝る時、も興る時、もこれを行はせむべし、汝またこれをして手に結びて、汝の目の間に置きて讀まじ、また汝の家の柱と汝の門に書記すべし、汝の神エホバ、その汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブに於て汝に與んと誓ひたりし地に汝を入らめ、汝をして汝が建たる者にあらざる大なる美しき邑々を得させ、汝が盈せるに非ざる諸の佳物を盈せ、汝が盈せるに非ざる諸の佳物を盈せ、

させたまふべし、汝ら食ひて飽え、然る時、汝謹め、汝をエホバの地奴隷たる家より導き出さむ、

忘るべし、勿れ、汝の神エホバを畏れてこれに事へ、汝の名を指て誓ふことをすべし、汝ら他の神々すなはち

申命記第六章
 一 申命記第六章一節
 二 申命記第六章二節
 三 申命記第六章三節
 四 申命記第六章四節
 五 申命記第六章五節
 六 申命記第六章六節
 七 申命記第六章七節
 八 申命記第六章八節
 九 申命記第六章九節
 十 申命記第六章十節
 十一 申命記第六章十一節
 十二 申命記第六章十二節
 十三 申命記第六章十三節
 十四 申命記第六章十四節
 十五 申命記第六章十五節
 十六 申命記第六章十六節
 十七 申命記第六章十七節
 十八 申命記第六章十八節
 十九 申命記第六章十九節
 二十 申命記第六章二十節
 二十一 申命記第六章二十一節
 二十二 申命記第六章二十二節
 二十三 申命記第六章二十三節
 二十四 申命記第六章二十四節
 二十五 申命記第六章二十五節
 二十六 申命記第六章二十六節
 二十七 申命記第六章二十七節
 二十八 申命記第六章二十八節
 二十九 申命記第六章二十九節
 三十 申命記第六章三十節

汝の四周なる民の神々に従ふべからず、汝らの中にいます汝の神エホバの姉妹神なれど、汝の神エホバを試むるなかれ、汝らの神エホバの汝らに命じたまはる誠命と法度とを汝ら讀みて守るべし、

汝ら汝の義と視善と禱たふ事を行ふべし、然せば汝福を獲かつ、汝の神エホバの汝の先祖お誓ひたまひし、

かの美地に入てこれを産業となすことを得ん、エホバまたその言たまひし如く、汝の歡をこそし、汝の、

前より逐はらひたまへ、後の日に至りて汝の子ならん、汝の神エホバが汝らに命じたまひし、

誠命と法度と律法と、何の汝もなるやと言ふ、汝その子に告げし我らの昔エホバに於て、

の奴隷たりしがエホバ強き手をもて我らをエホバより導き出たまへり、即ちエホバわれらの目の前、

において大なる畏るべき徴と奇蹟をエホバとバロメロとの全家とに示したまひ、我らを其處より導き出、

して其會て我儕の先祖に誓ひし地に我らを入れて之を我らに與へたまへり、而してエホバ我らに命じたまひ、

の法度を守れど命じたまふは是れを我らに命じて我らに神エホバを畏れて、常お幸ならしめん、またエホバ今日、

のてどく我らを守りて生命を保たたまへん、とてなりき、我らも是の命ぜられたるごとく、一切の誠命を、

我らの神エホバの前に謹んで守らば、是れは義となさむべし、

汝の神エホバが往て獲べきところの地に汝を導き、いり多は、國々の民エホバに、

リ人ガナン、人ベリシ、人エヒ人、人エヌ人、なご、汝より、も、多し、くして、力ある七の民を汝の前より逐はらひたまへ、

は、汝の時、すなはち、汝の神エホバ、かれらに汝を命じて、汝にこれを賜ふ、また、汝が、これらをして、

滅すべし、汝らと何の契約をもなすべからず、汝らと何の契約をもなすべからず、汝らと何の契約をもなすべからず、

申命記第七章
 一 申命記第七章一節
 二 申命記第七章二節
 三 申命記第七章三節
 四 申命記第七章四節
 五 申命記第七章五節
 六 申命記第七章六節
 七 申命記第七章七節
 八 申命記第七章八節
 九 申命記第七章九節
 十 申命記第七章十節
 十一 申命記第七章十一節
 十二 申命記第七章十二節
 十三 申命記第七章十三節
 十四 申命記第七章十四節
 十五 申命記第七章十五節
 十六 申命記第七章十六節
 十七 申命記第七章十七節
 十八 申命記第七章十八節
 十九 申命記第七章十九節
 二十 申命記第七章二十節
 二十一 申命記第七章二十一節
 二十二 申命記第七章二十二節
 二十三 申命記第七章二十三節
 二十四 申命記第七章二十四節
 二十五 申命記第七章二十五節
 二十六 申命記第七章二十六節
 二十七 申命記第七章二十七節
 二十八 申命記第七章二十八節
 二十九 申命記第七章二十九節
 三十 申命記第七章三十節
 三十一 申命記第七章三十一節
 三十二 申命記第七章三十二節
 三十三 申命記第七章三十三節
 三十四 申命記第七章三十四節
 三十五 申命記第七章三十五節
 三十六 申命記第七章三十六節
 三十七 申命記第七章三十七節
 三十八 申命記第七章三十八節
 三十九 申命記第七章三十九節
 四十 申命記第七章四十節
 四十一 申命記第七章四十一節
 四十二 申命記第七章四十二節
 四十三 申命記第七章四十三節
 四十四 申命記第七章四十四節
 四十五 申命記第七章四十五節
 四十六 申命記第七章四十六節
 四十七 申命記第七章四十七節
 四十八 申命記第七章四十八節
 四十九 申命記第七章四十九節
 五十 申命記第七章五十節